２０２１年6月２３日（水）

老球の細道６１６号

尊敬するコーチ新井春生先生との出会い③

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

６１３号からの続き。【何事もトライしてみるものである。１週間も経ないうちに先生から速達で本が送られて来た。夢にまで見たあの『清らかな汗』が。一緒に手紙が添えてあった。「本の代金はいりません。強いチームを創ってください」と。

初めて見る先生の自筆。あの時の感動は今でも忘れない。多くの知人に知らせて自慢すると同時に感動を分かちあってもらった。

このことをきっかけにしてその後、先生からは機会あるごとに先生の著書やバスケットボールの資料を送っていただいた。そしてそこにはいつも心温まる励ましの手紙を添えてくれた。また、私から出した手紙には必ず返事を書いてくれた。それは３日も経たないうちに名古屋から届く。常に速達でよこしてくれたからである。誠意の何たるかを先生の手紙の返信によって教えられた。「早さは誠意である」。凄い人ほど誠実で、相手を大切にする。

手紙をもらえば、電話で声を聴けば、次は当然直接会いたくなる。情熱が高じて、先生を会津の地へ来て講習会をしてもらうことになった。会津の多くの指導者に先生のすばらしさに接してもらい感動を共に体験してほしかった。

会津で直接先生の指導を受けるようになってからは、ファンの域を脱して信者へと変身してしまった。学生時代から抱いていた先生への想いと憧れは間違いではなかったことを確信した。先生の前に出ると、すべてを見すかされてしまう怖さと、何歳になっても子どもになれる懐の広さと温かさを感じさせられた。

先生に直接会ったその日に、私は一冊の高価なノートを買い求めた。先生との出会いを記念すると同時に、この熱い想いをずっと忘れないで書き続けていこうと決心したバスケットボールノートである。ノートには「日本一への道」と題名をつけた。当時福島国体を控えていた私にとって夢をかなえるための心の友とした。新井先生との出会いによって、なんとなくその夢に一歩近づいたような気がしたから不思議である。しかし、先生は言う。

「栄光への道　限りなく遠い。今日の一歩で近づく」

どこまでも先生の言葉は厳しいが心底共感できる。それは、先生の激しい情熱、凡人には気づかないきめ細かな心配り、そして驚くべき創造力と先取の精神をすべて備えた偉大な人物だからである。

もっと若い時分に先生との直接出会いを求めなかった自分の弱気に、今になって腹が立ち後悔している。先生はいつも言っている。

「まず燃えよ。燃えない焚火を誰が囲もうか」

燃えている指導者に良い選手が集まり、燃えている人間はいつまでも若い】

以上が、先生の著書『高き理想を求めて』に掲載された私と先生との初の出会いを記述した文章である。これ以後、私は多くの著名な指導者との出会いを求めるようになった。〈続〉